

# なっから「わくわく」プロジェクト

群馬県立女子大学文学部美学美術史学科2年 齊藤きらり

これまで訪問した経験のない富岡製糸場と絹産業遺産群、訪問前の期待感は訪問後どう変わるのか。その感覚のギャップをまとめ、実際に見聞した各資産の状況と合わせて、4資産に共通する価値や魅力は何かについて考察した。さらに、この結果をもとに各資産の観光と教育に一層有効と思われる提案を付記した。

## 1. 研究の内容

- ・富岡製糸場と絹産業遺産群の現在
- ・各資産へフィールドワーク前の印象
- ・フィールドワーク後 (a. 経路 b. 時間 c. 結果) の印象
- ・各資産のフィールドワーク後の印象などの結果のとりまとめ
- ・解決法の提案と応用

## 2. 研究方法

本研究における調査研究の方法は以下のとおりである。

- ・各資産の訪問前に抱いた印象と期待感の記録
- ・各資産 (富岡製糸場/高山社跡/田島弥平旧宅/荒船風穴) でのフィールドワーク
- ・担当教員とのディスカッション

## 3. 各資産の印象

### ①富岡製糸場

〈フィールドワーク前〉

日本全国に点在している世界遺産と比較すると、ビジュアルの魅力は少ないように思われる。そのため、歴史背景を伝える必要があるが、どこに価値があるのか伝わりにくい資産であると言える。また、富岡市という場所で地元住民でない限り、「時間をかけて行ってよかった」と思える場所なのか疑問に思った。立派なのだろうがよくわからないという第一印象だったが、織物に興味がある自分にとっては面白そうと思えた。

〈フィールドワーク後〉

- a. 群馬県立女子大学—高崎駅—上州富岡駅 (バス・電車)
- b. 2時間弱
- c. 詳しい説明を聞くことが出来たとともに、展示も充実していた。偶然繰糸作業の見学をすることが出来たが、あまりやっていないため見られないと残念だと思った。富岡製糸場周辺地域にある文化財やお店も興味深く、教会や工女が眠る寺院など、この地域で暮らし日本の製糸業のため働いた女性達の生きた証を感じることができる街であると感じた。しかし、電車で上州富岡駅を下車するのではなく、自動車

を利用して製糸場近隣の駐車場に自動車を停めて最短距離しか街を歩かない人々にとっては、富岡という地域の魅力を伝える場がないのではないかと思った。



## ②高山社跡

〈フィールドワーク前〉

養蚕の方法を教えていた学校としての機能を持っていた高山社は、見どころが少ないのではないかと考えた。他の絹産業遺産と同様、ビジュアル的な魅力は少ないだろうという印象を持った。

また、高山社跡周辺の情報があまりなかった。

〈フィールドワーク後〉

a. 玉村町役場—新町駅—高山社前（電車・バス）

b. 2時間

c. 山と川に囲まれた高山地域は、現地へ行くバスがあまりないことに加え、お店がないというマイナス点を抱えていたが、解説ボランティアの方々がとても親切で自然豊かな利点を持った場所だった。訪れる観光客の中には、解説ボランティアの方との会話を楽しみにしている方もいるらしい。また、インターネットの写真で見るのは母屋のものばかりで、どんな外観をしているのかを知らなかった。そのため、下の写真のように武家屋敷のような石垣になっていることに驚いた。



### ③田島弥平旧宅

〈フィールドワーク前〉

他の3資産と比較して最もよく知らない資産だった。「清涼育」が完成し、安定した繭の生産に成功したという最低限の知識のみあった。また、実際に人が住んでいるのが興味深かったが、田島弥平旧宅周辺に見て回るものがないのではないかと、見学範囲が狭く満足感はあまりないのではという思いもあった。

〈フィールドワーク後〉

- a. 玉村町役場—現地（車）
- b. 40分
- c. 見学範囲がとても狭いため、周辺にある渋沢栄一記念館など関連施設と回った。また、一般の住宅地に世界遺産があることの驚きが大きかった。すぐ脇には利根川が流れており、水運の歴史も共に見ることができる地理的にも興味深い場所であると感じた。



### ④荒船風穴

〈フィールドワーク前〉

「自然の冷蔵庫」と呼ばれる風穴が具体的にどのような原理で夏でも涼しさを保っているのかを理解していなかったが、他の3資産と比べアスレチック要素のある資産だと感じた。山中にあることもあって、世界遺産に行くというよりもハイキングに行くような印象を持った。

〈フィールドワーク後〉

- a. 群馬県立女子大学—高崎駅—下仁田駅—現地（バス・電車・タクシー）
- b. 2時間
- c. 現地へ行くためにバスではなくタクシーを利用したのは荒船風穴のみだった。タクシー運転手の方との会話を楽しみつつ荒船風穴とその周辺に位置する神津牧場へも寄った。意外だったのは、思いの外荒船風穴の規模が小さいことだ。山全体をイメージしていた人にとっては、少々想像と異なっただろう。また、下仁田駅周辺を歩いてみて、下仁田にあるお店はとても良い印象を抱いた。葱と蒟蒻という印象が強かった下仁田のイメージがまた大きく変化した体験だった。

## 4. 結果のとりまとめ

結論から述べれば、富岡製糸場と絹産業遺産群の魅力は、それぞれの地域の魅力があってこそ成立するものではないだろうか。世界遺産ばかり発信するのではなく、地域を包括的に見る必要があると考える。パンフレット、HPなど群馬県内外へ発信する媒体では富岡製糸場と各資産の周辺のお店などのスポットも併せて紹介しているが、その情報量は少なく実際に足を運ぶ人はどれほどいるのか疑問に思った。特に富岡製糸場以外のビジュアル要素が少ない資産では、すでに消えてしまった歴史背景が中心で資産本体の情報量が多いため、今現在生きている地域の発信まで手が回らないのではないかと考えるほどである。

さらに、地域の魅力は、発信するだけでは伝わらない。自治体や個人が発信したとしても、一人一人の興味関心に触れるかどうかは分からない。では、どうして行くべきなのかについて一つの提案をする。

## 5. 解決方法の提案

ここでは、解決方法の一つとして「ロゲイニング」を提案したい。

〈概要〉

ロゲイニング (ROGAINING) またはロゲイン (ROGAINE) とは、オーストラリア発祥のナビゲーションスポーツである。コンパスと地図を持ち指定されたコントロールポイント (以下CP) をまわりいかに多く得点を獲得するかを競う。競技は主に山、森林、高原などの自然の中で行われる。(1)

群馬県では現在2大会開催されているが、その知名度はまだ低いスポーツである。しかし、このロゲイニングは様々な要素を伴いながら応用が利くと言える。そう考える理由として、昨年山梨県都留市で行われた「つるロゲイニング」がある。(2)



学生が中心となって活動している“ゲストハウスゆかり”と“地方創生任意団体SMITRY”がコラボレーションし、都留市市民委員会指定事業として採択されたほか富士急行株式会社をはじめとした7団体/企業の後援/協力を受け「まちを楽しむコンテンツ作り」として開催したものである。

・様々な切り口で都留や郡内地域を盛り上げる方法を模索する



- ・新しい関係人口創出に向けた実証実験
  - ・都留や郡内での魅力的なコンテンツを導入する
  - ・今後教育や地域交流に生かすための実地調査
- この4点を目的としている。

「つるロゲイニング」は、都留という地域の中で行われたロゲイニングであるわけだが、都留に住む地域の人々からも多数参加した。“地元には何もないと思っていたが新たな良さを発見できた”という地域住民の方もおり、地域住民も観光客も同様に楽しむことができることは、大きな強みだと考える。

そして、従来のスタンプラリーやオリエンテーリングと異なり、スポーツでかつ地理、歴史、文化などその地域の新たな魅力に気づきやすくなる一つのきっかけとして成立する。また、幅広い年齢層の参加が可能であるため世代間交流もでき、徒歩が多いロゲイニングは健康増進という観点からもメリットが大きい。この「つるロゲイニング」では、

①チームで楽しむ、②まちを歩いて楽しむ、③都留を堪能する、④スポーツとして運動を楽しむ  
以上4つの狙いが達成された。

「つるロゲイニング」は、観光ロゲイニングとして実施をされていたが、ロゲイニングを富岡製糸場と絹産業遺産群にどのように適用させるかを以下に記していきたい。



富岡製糸場

## 6. ロゲイニングの富岡製糸場と絹産業遺産群への適用方法

4資産を巡ることを前提としたロゲイニングであると、行動範囲が広がるとともに所要時間も大幅に長くなるため、各資産のある地域ごとのロゲイニングが現実的であると考え。そして、基本的に地理、歴史、文化、食、これらの要素を含ませながら企画していくことが大切ではないだろうか。

以下に資産別にどのようなロゲイニングが適しているかをまとめてみた。

- ・富岡製糸場：富岡市内での製糸場関連遺産及び製糸場以前の、地域ロゲイニング
- ・高山社跡：山、川などの地形と高山地域の関連を見る、フォトロゲイニング
- ・田島弥平旧宅：利根川と絹産業のつながりを県から出て見ていく、歴史ロゲイニング
- ・荒船風穴：駅前付近と山間部の養蚕のつながりを探す、食ロゲイニング



荒船風穴からの景色

今回提案したのは、世界遺産を目的としたものではなく、「気軽に」立ち寄りという観光形態だ。ここから、地域教育の分野へ絞ってもロゲイニングは開催できる。小中学生及び高校生を対象にした自分の地域のことを学ぶロゲイニングにも応用が利きそうだ。

## 7. まとめ

各資産をフィールドワークしたことで、今まで気が付かなかった資産をはじめとする地域の魅力に気づくことができ、また行きたいと思えるつながりもできた。この「また行きたい」と思わせられるような人やものとの出会いがあるなかで世界遺産にも行ってみようかというきっかけ作りになると確信した。

ロゲイニングは、今回提案したものからも様々な要素を変えて、目的に応じたものへ応用することができるのが強みだが、これはあくまでも一例に過ぎない。「地域の良さを加えて世界遺産をより輝かせる」ことを目的としてロゲイニングを紹介した。ロゲイニングかどうにかかわらず今後、富岡製糸場と絹産業遺産群がどのような視点から観光や教育とつながっていくのかがとても楽しみである。

### 注

- (1) 日本ロゲイニング協会：ロゲイニングとは  
<https://www.rogaining.jp/about>
- (2) つるロゲイニング  
つるロゲイニング2021AUTUMN 報告書.pdf